

植生モニタリングサイト一覧 (100 m<sup>2</sup>運動地を除く) 2009年6月現在

資料3 - 2

No.	地区区分	調査区タイプ	場所	調査区サイズ	設置年	調査項目	特に着目する指標	判断基準*	調査頻度	備考	設置主体
1	A	森林調査区	遠音別岳	混合ベルト調査区(4m×100m)×2	2006	木本,林床,葉量	森林動態	新規採食量の変化(面積・種)		中標高非越冬地	環
2	A	高山植生	遠音別岳	ベルト(1m×20m)×2	2006	種別被度, 採食圧	採食圧	種数, 被度		高標高非越冬地	環
18	A	森林調査区	知床連山(羅臼岳)	混合ベルト調査区(4m×100m)×3 (1ヶ所は50m)	2007	木本,林床,葉量	採食圧(木本・林床)	新規採食量の変化(面積・種)		低～中標高非越冬地	環
19	A	高山植生	知床連山	ベルト(1m×10～23m)×5	2004 2007	種別被度, 採食圧,踏圧	採食圧	種数, 被度		高標高非越冬地	環
21	A	森林調査区	知床岳周辺	混合ベルト調査区(4m×100m)×1	2008	木本,林床,葉量	採食圧(木本・林床)	新規採食量の変化(面積・種)		低～中標高非越冬地	環
22	A	高山植生	知床沼周辺	ベルト(1m×10～23m)×2	2008	種別被度, 採食圧,踏圧	採食圧	種数, 被度		高標高非越冬地	環
24	A	採食圧	ルシャ国有林	混合ベルト調査区(4m×100m)×4	2008	木本, 林床	採食圧(木本・林床)	新規採食量の変化(面積・種)		越冬地	林
3	特定	森林調査区	知床岬台地西側林内	囲い区(3m高シカ柵)・対照区共に100m×100m	2004	木本,林床	森林動態		3年	越冬地	林
4	特定	植生保護柵	知床岬台地草原	シカ柵(20m×20m)2ヶ所、半島状基部遮断1ヶ所	2003 2004	群落	希少植生回復過程		1年	越冬地	環
6	特定	採食圧	知床岬台地林内	50m×50m	1999	木本,林床	ミズナラ		未定	越冬地	独
7	特定	採食圧	知床岬台地草原	ベルト(1m×100m)×3	1987	ササ等	ササ	被度, ササ高	1-5年	越冬地	独
8	特定	採食量	知床岬台地草原	金属ケージ(1.5×1.5m)×6、および簡易ケージ×10	2007	乾燥重量	イネ科草本等	採食量		越冬地	環、道、独
23	特定	採食圧	岬国有林	混合ベルト調査区(4m×100m)×5	2008	木本, 林床	採食圧(木本・林床)	新規採食量の変化(面積・種)		越冬地	林
9	B	森林調査区	知床連山山麓幌別台地	囲い区(3m高シカ柵、120m×80m)・対照区(100m×100m)	2003	木本,林床	森林動態		2年	越冬地	林
10	B	森林調査区	知床連山山麓幌別川流域	方形区(200m×200m)	1992	木本,林床	森林動態			越冬地	独
11	B	採食圧	知床連山中腹(斜里側)	標高500m付近に混合ベルト調査区(4m×100m)×5(固定区×1)	2006～ 2007	木本,林床	採食圧(木本・林床)	新規採食量の変化(面積・種)		中標高非越冬地(一部越冬地)	林
12	B	採食圧	知床連山山麓岩尾別台地	混合ベルト調査区(4m×100m)×2	2006	木本,林床	採食圧(木本・林床)	新規採食量の変化(面積・種)		越冬地	環
25	B	植生保護柵	知床連山山麓岩尾別台地	カシワ林侵入防護柵	2008	木本, 林床	カシワ林回復過程			越冬地	林
13	B	採食圧	ルサ - 相泊	混合ベルト調査区(4m×100m)×10、(固定区×1)	2006～ 2007	木本,林床	採食圧(木本・林床)	新規採食量の変化(面積・種)		越冬地	林
14	隣接	採食圧	遠音別岳山麓オシンコシン-真鯉	混合ベルト調査区(4m×100m)×10(固定区×2)	2006～ 2007	木本,林床	採食圧(木本・林床)	新規採食量の変化(面積・種)		越冬地	林
15	隣接	採食圧	遠音別岳山麓真鯉	混合ベルト調査区(4m×100m)×1	2006	木本,林床	採食圧(木本・林床)	新規採食量の変化(面積・種)		越冬地	環
16	隣接	採食圧	遠音別岳山麓峯浜 - 春刈古丹	混合ベルト調査区(4m×100m)×7	2006～ 2007	木本,林床	採食圧(木本・林床)	新規採食量の変化(面積・種)		低～中標高非越冬地(一部越冬地)	林
20	隣接	採食圧	知床連山山麓(羅臼)	混合ベルト調査区(4m×100m)×3、(固定区×1)	2006～ 2007	木本, 林床	採食圧(木本・林床)	新規採食量の変化(面積・種)		越冬地	林
17	A、B 特定	海岸植生	ルシャ、相泊以先	方形区設置中 40ヶ所以上となる見込み	2006～ 2008	群落	群落動態・採食圧	種構成・被度の変化		海岸部	環

\* 年次密度調整の継続/停止の判断と、密度調整新規開始の判断基準は異なる。前者は定量的に設定できるが、後者は総合的な判断になる。

\* 設置主体凡例: 環 = 環境省、林 = 林野庁(北海道森林管理局)、道 = 北海道環境科学センター、独 = 大学・知床財団などによる独自の設置

1 1995-1996年北大設置調査区を2006年に環境省事業で再調査。

4 2003年はアブラコ湾柵とエオルシ柵、2004年に羅臼側トリカブト柵。

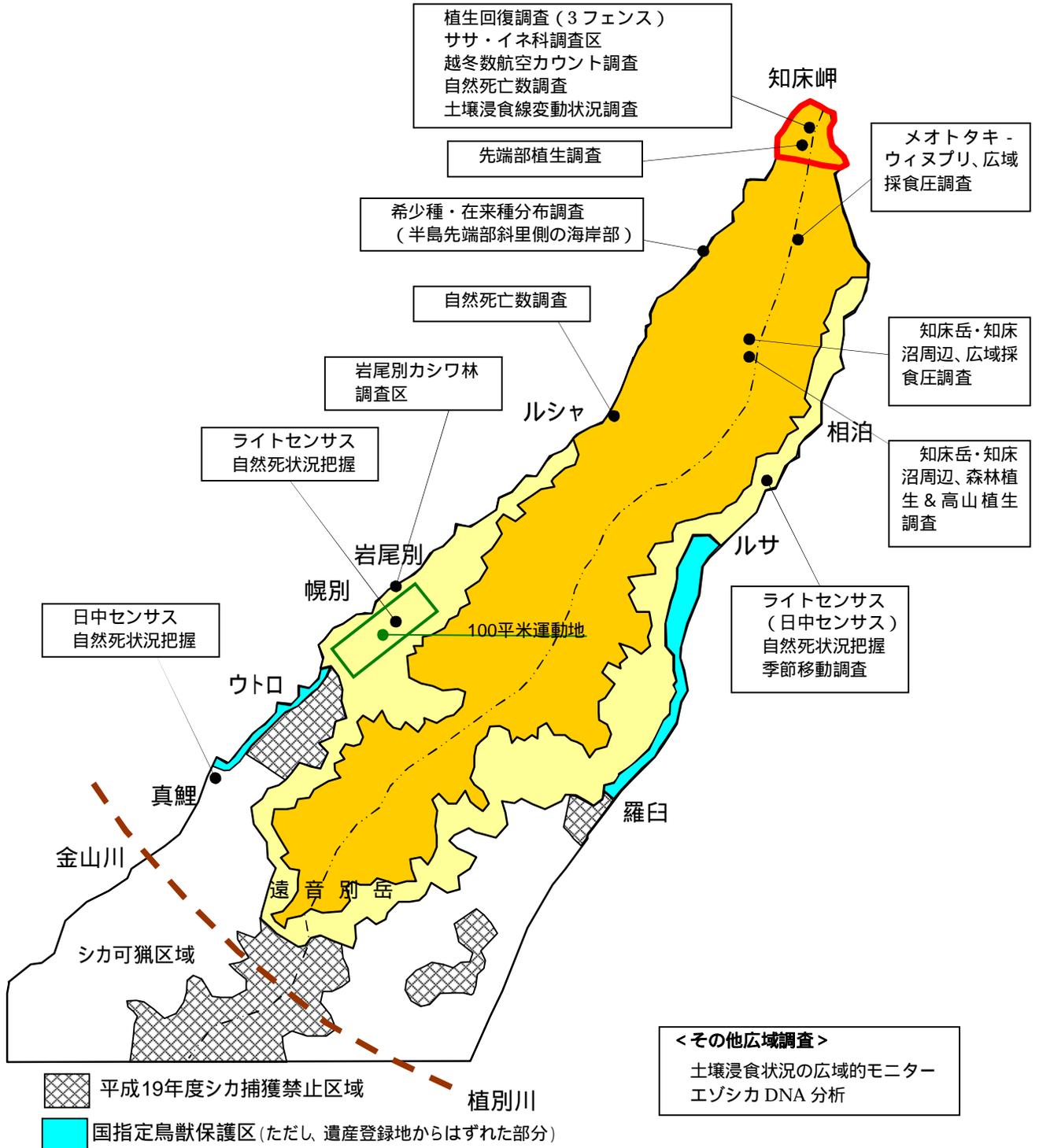
5-7 梶ほか

9 柵設置以前の1988年より、斜里町100 m<sup>2</sup>運動による毎木データあり。

10 琉球大学 久保田ほか

# H21シカ年度モニタリング調査位置図

\* 固定調査区による植生・採食圧調査を除く



植生等モニタリングサイト位置図 \*100平米運動地除く

( 図中番号は次頁表の No. に対応 )

